

加 佐

11月号

令和7年11月4日

舞鶴市立加佐中学校



<https://kasa-maizuru.edumap.jp/>



文化の話(2回目)



昨年の11月号もタイトルは「学校の文化」でした。「2度目はな〜」とも思ったのですが、子どもたちに「文化祭の文化って何？」って問いかけたときに、正解かどうか？は別にして「自分のことば」で語れるようになるまでは、問いかけ続けていこうと思うのです。今年の文化祭のテーマは「百歌繚乱」です。

子どもたちの実行委員会がアンケートをもとに考えました。いつもは阪口の独り言ばかりなので、ココは趣向をかえて、実行委員会のメンバーにインタビューした内容を綴ります。

Q:「『百歌繚乱』というテーマに込めた思いは何ですか？」

A:「それぞれの歌声を響かせて個性豊かな文化祭にしたい」

「個性豊かなみんなが、それぞれの歌声を響かせて文化祭をよいものにしようという思い」

Q:「これまでと今年、どんなところを変えたいと思っている？」

A:「学年関係なく盛り上げられるようにしたい」

「他学年との交流をもっと増やしたい」

Q:「普段の教科学習と違う文化祭の取組、どんなところが違うだろうか？良さってあるだろうか？」

A:「縦割り活動(異年齢活動)がいい」「他学年との交流が増えること」

悩みながらも答えてくれました。立派です。

(自分が中学校のときに同じように聞かれても、「・・・」だったろうな。)

実行委員会はインタビューを通して、なんだかぼんやりした文化祭への思いを「ことば」にしました。その「ことば」は、生徒みんなに「百歌繚乱に込めた思い」「いい文化祭ってどんなだろう？」をあらためて投げかけます。

あと1週間、「文化祭の取組って、なんでやっているんだろう？」「いい文化祭って、どんなだったら「いい」になるんだろう？」「結局、文化祭の文化って何？」をみんなで考えることそして「ことば」で表すこと ぼんやりとした「いいな〜 よかったな〜」を「ことば」にすると「カタチ」になるから見えやすくなる。加佐中の研究テーマ「ことばの力を育てる」は国語の勉強のことではなくって、みんなの心の中にある「なんとなく〇〇な感じ」をハッキリしたカタチにする。カタチがハッキリするとよく見えるから、自信をもって「こうです！」と言える。

「自信をもって話せる人」は頼もしいよね。そんな頼もしい若者になってほしい。ところが、この力通知簿の数字にするのが難しいんだよね。こんなふうに「大切なんだけど計りにくいこと」ってたくさんあるし、それがこれからの社会で大切になる。(計りにくいけど。)

生徒たちが、文化祭にいくらかの思いを込めて、『自分事』として関わったとき、「とってもよかった」「ふつうによかった」「まずまずよかった」と「よかった尺度」はそれぞれあるにしても、(もしかしたら「面白くない。。」「やりたくない。。」の思いもどこかにあるかもしれないけど)文化祭が「いい文化祭」として価値を持つことができたなら次への手がかりになりそうだ。

平日開催ですが、ぜひご参観ください。

舞鶴市立加佐中学校 校長 阪口靖敬 教職員一同

